

話しましょう

～子どもたちの輝く瞳と笑顔が絶えない未来が続くために～

仲嶺 真弓

10月からの保育料無償化のことで、保護者（つばさ・アトム）と話す機会が多くありました。その中でこんな意見が聞かれました。「保護者は単純に、支払うお金が減ったという目の前のお得感しかないから、何が問題なのかわからない。アトム福祉会で働く職員は、日々やっていることは当たり前で、いいのか悪いのか…そのあたり前をあえて口にしないから、何を問題視しているのかわからない保護者がほとんどじゃないかな。」赤裸々に語られたその意見が、今も鮮明に心に残っています。よくよく考えると、今はまったくその通りですという気持ちに至っている私ですが、その意見を耳にしたときは、目から鱗が落ちたという表現も否めない…点と点が一直線上に繋がった瞬間でした。何が繋がったのかというと、今年度つばさで繰り広げられてきた保護者と職員のやり取りの数々も、日々やっている当たり前を職員はあえて口にしないから、保護者はわからないことが多く疑問が膨らんだ状況があったのだということに気付いたのです。今年度のつばさっ子を読み返してもわかります。“おやおやルーム”7月号企画で、安全（事故・不審者・災害から身を守る）についてのアンケート、ぱんだ組9月懇談会保護者司会進行テーマ「一緒に保育を考える。ぱんだ組についてどう思っていますか?」、きりん組10月号のTシャツ作成についての保護者・担任互いの思いの意見交流、そして保育料無償化についての話。その全てに共通していたことは、子どもにとってどうかを基本におき保護者と職員が同じ土俵に立ち、それぞれの立場から見える景色や感じている思いを赤裸々に語り、共に考え合う風景がありました。今までもその風景を思い描きながらやってきましたが、その多くは一方通行のやり取りで、共に考え合うということに至っていなかったのだと思います。その事実を踏まえ、さらに次に進むための第一歩として、急でしたが、初の試みで10月職員会議を保護者参加可能なオープン職員会議をしてみました。急だったので参加者は4名と少なかったのですが、協議事項では保護者目線での意見や質問も含め、共に学び、考える職員会議となり、カンガルーの会（つばさ保護者会）は保護者主体の会ですが、職員もカンガルーの会の運営を知ろう、保護者同士が繋がるきっかけに、職員の私たちも何かできることがあるのではないかと…できるとしたら何ができるのかについて話しました。保護者意見の1つに、ただでさえ忙しい業務がある中、行事やレクレーションにも参加するとなると職員の負担が多くなるのではないかと危惧する意見も聞かれました。確かにそんな一面もあります。けれど、職員の出番…職員がやれることがあるのではないかという思いがあり、これからもより、関わっていくので、やれることから楽しみながら一緒に考えていきたいと思います。ということで職員会議を終えました。参加者の感想も、3ページに載せています。

保育の現場で大切にしていることは、子どもたちのこれからの未来に大きく関わることなので、職員が日々やっている当たり前のことを言葉にしていく機会を多くもてればと思っています。子どもたちの輝く瞳と、笑顔が絶えない未来が続くためには、何をすればいいのか…。大人の私たち一人ひとりが、自分とは違う見方があることを知り、視野を広げることで、見える風景もまた少し違ってきます。まずは漠然と湧いてきた小さな疑問でもいいです。呟く機会は、懇談会や日報、行事などたくさんあるので話しましょう。



【 育む会マジックショーファイナル & つばさ村バザーを開催しました 】

10月27日（日）育む会マジックショーファイナルを開催しました。当日の参加家庭数は188名。卒園児や姉妹園のアトムからも参加があり、大いに盛り上がりました。

マジックショーのオープニングで、過去7回を振り返り、数枚の写真をスライドで流しました。毎年すったもんだしながらも、最後はしっかり思いを込めて仕上げてくるパフォーマーの姿が映し出されていました。そのパフォーマーは勿論、職員だけではなく、マジックを教わったジャン＝ピエール＝さとるさんや育む会メンバーの勇姿もあり、短編でしたが、懐かしく心に染みしました。ファイナルとなる今年は、ゲストに小学生マジシャンのT&Mさんを迎え、アトム共同福祉会職員も持ち前のパフォーマンス力を発揮しました。T&Mさんのマジックは大人も刺激を受けました。そして今回が一区切りとなるマジックショーは、職員にとっても集大成。その職員の姿に、観客の子どもたちの目がキラキラと輝き魅了されていく様子を目の当たりに感じました。後日聞かれた保護者からの感想は、保育士さんおもしろすぎ。マジックのクオリティは…さておき笑いのクオリティは高いといつも思う。なぜファイナルなんですか。来年もやってくださいよ。何より子どもたちが笑顔で楽しそうにしてる様子がよかった。などなど…。たくさん心温まる感想をありがとうございました。

マジックショー後のつばさ村バザーも大盛況。お化け屋敷やゲームコーナー、ポップコーンコーナーで、有志のお父さんが力を貸してくれました。フランクフルトコーナーでは有志のお母さんの姿も。後日の感想で、子どもたちが笑ってるから頑張れた。子どもの笑顔が見られるなら来年も店番ぐらいならできるかも。来年はお化け屋敷やってみようかな。などなど…。マジックショーもつばさ村も、準備は大変なのだけれど、なんだかんだ言いながらも職員がやめられないのは、やっぱり、子どもたちの輝く瞳と満面の笑顔がそこにあるからでした。その姿は、当日を迎えるまでも見られ、パフォーマー職員の顔が写るポスターを飽きることなく見つめている子どもたちの姿に元気をもらっていました。そんな職員の気持と同じように感じてくれたことが保護者の感想から感じられたことはとても大きな収穫でした。